

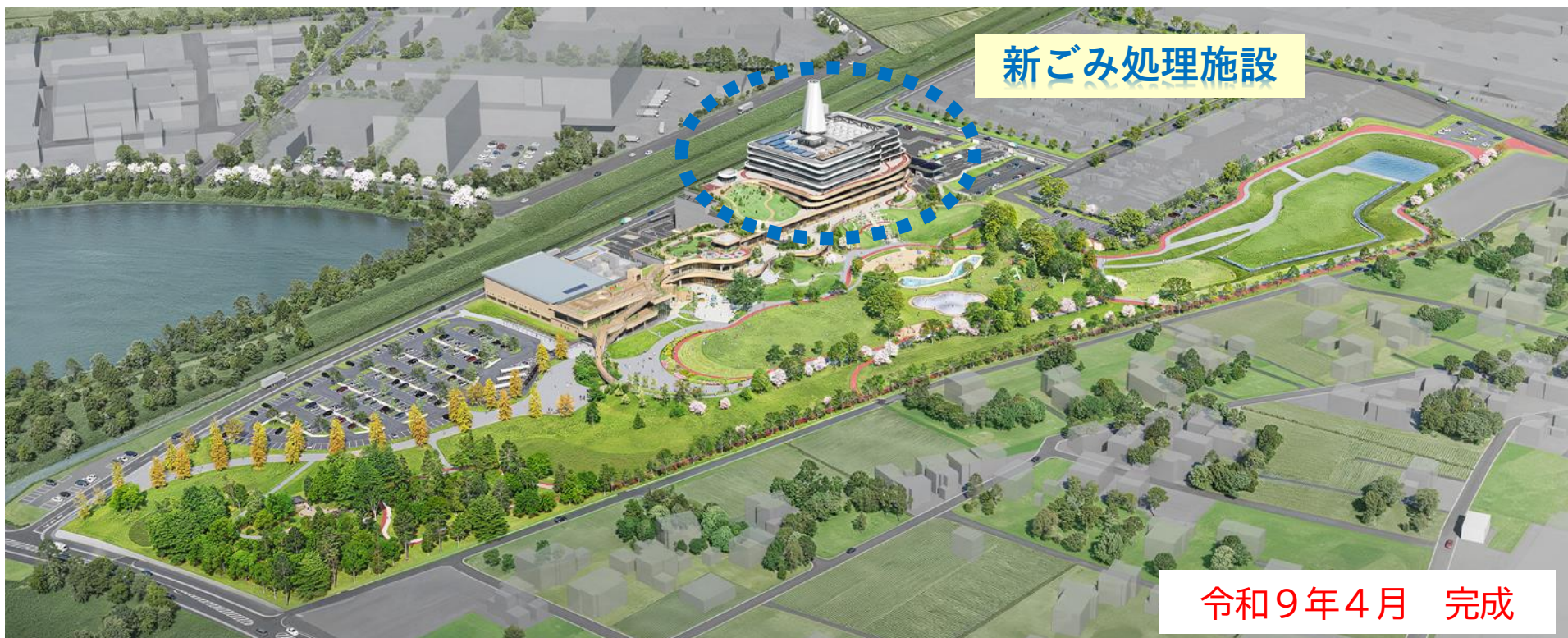
「新ごみ処理施設」 「余熱利用施設」 「本多静六記念公園」 の一体整備

各施設を一体的に整備することで、「健康・運動・余暇・憩い・学び・交流」など、一つの場所でいくつもの楽しみを体験できる 新たな賑わい拠点を創出します。



新ごみ処理施設

市内に3つある既存の清掃センターを1つに集約した「新ごみ処理施設」を整備します。



【所在地】 菖蒲町台（菖蒲清掃センター周辺）の約40,000m²

【整備施設】 エネルギー回収施設（155 t /日）、マテリアルリサイクル施設（11 t /日）

【建物高さ】 33m（地上6階・地下1階）

【事業費】 約459億円（建設費/301億円、運営費(20年間)/145億円、旧施設解体費/13億円）

-----> 久喜負担/248億円、宮代負担/60億円、国交付金等/151億円（概算）

1. 施設全景

迷惑施設というイメージを払拭し、多くの市民の方に利用される施設とします。



2-1. 賑わい施設（屋上庭園）

余熱利用施設とつながる屋上庭園は、多様な植栽や子供遊具により、憩い・遊びの場となります。



2-2. 賑わい施設（大階段ステージ・テラス）

公園とつながる大階段ステージやテラスは、人々の憩い・交流の場となります。



2-3. 賑わい施設（公園との連携の丘）

公園とつながる丘や遊歩道は、丘を利用した遊びやウォーキング・ランニングコースにより、健康・運動・遊びの場となります。



3. 施設の一体整備

ごみ処理施設・余熱利用施設・公園の境界をなくし、利用者が各施設を自由に行き来できるようにします。



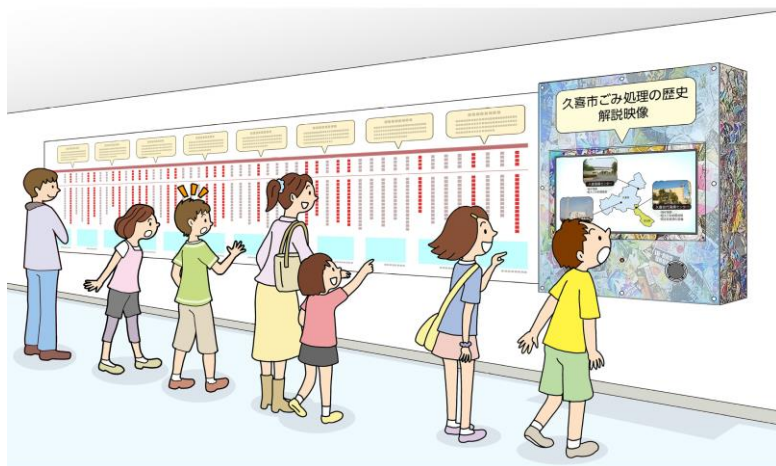
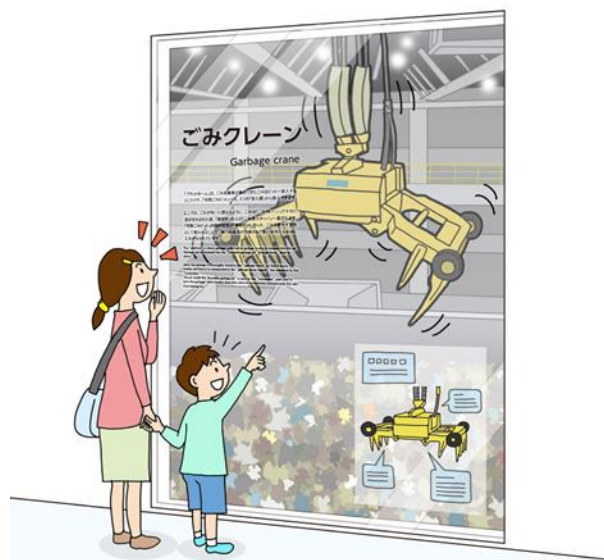
4. 施設内（管理棟・ホール）

団体見学者のスムーズな受入れができる広いホールや歓談スペースを設けます。



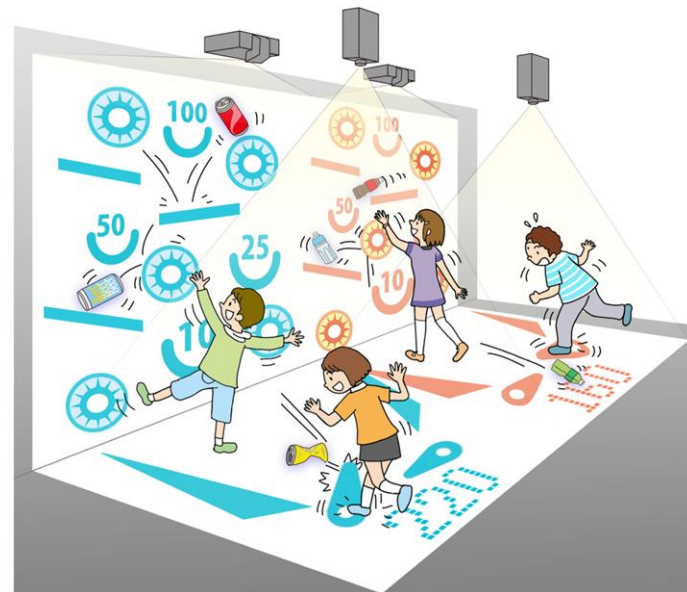
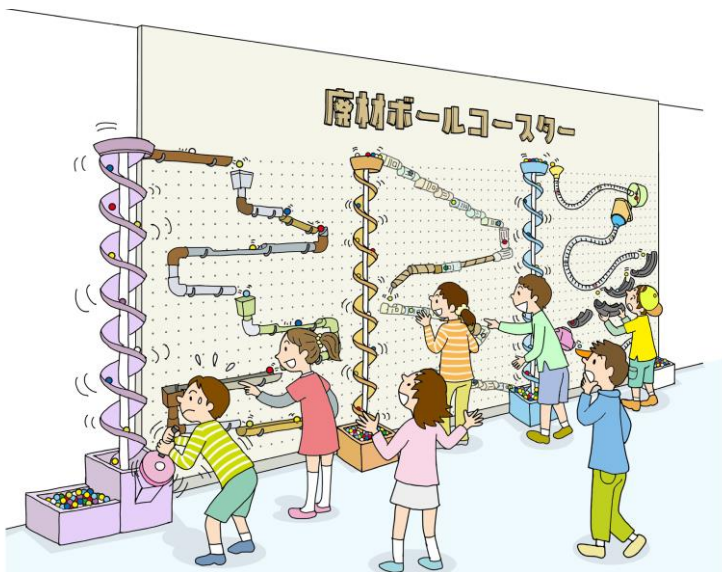
5-1. 環境啓発（見学・学習）

ごみ処理工程などを見学しながら学べます。



5-2. 環境啓発（見学・学習）

廃材を利用したゲームなどで環境に対する興味を引き出しながら学べます。



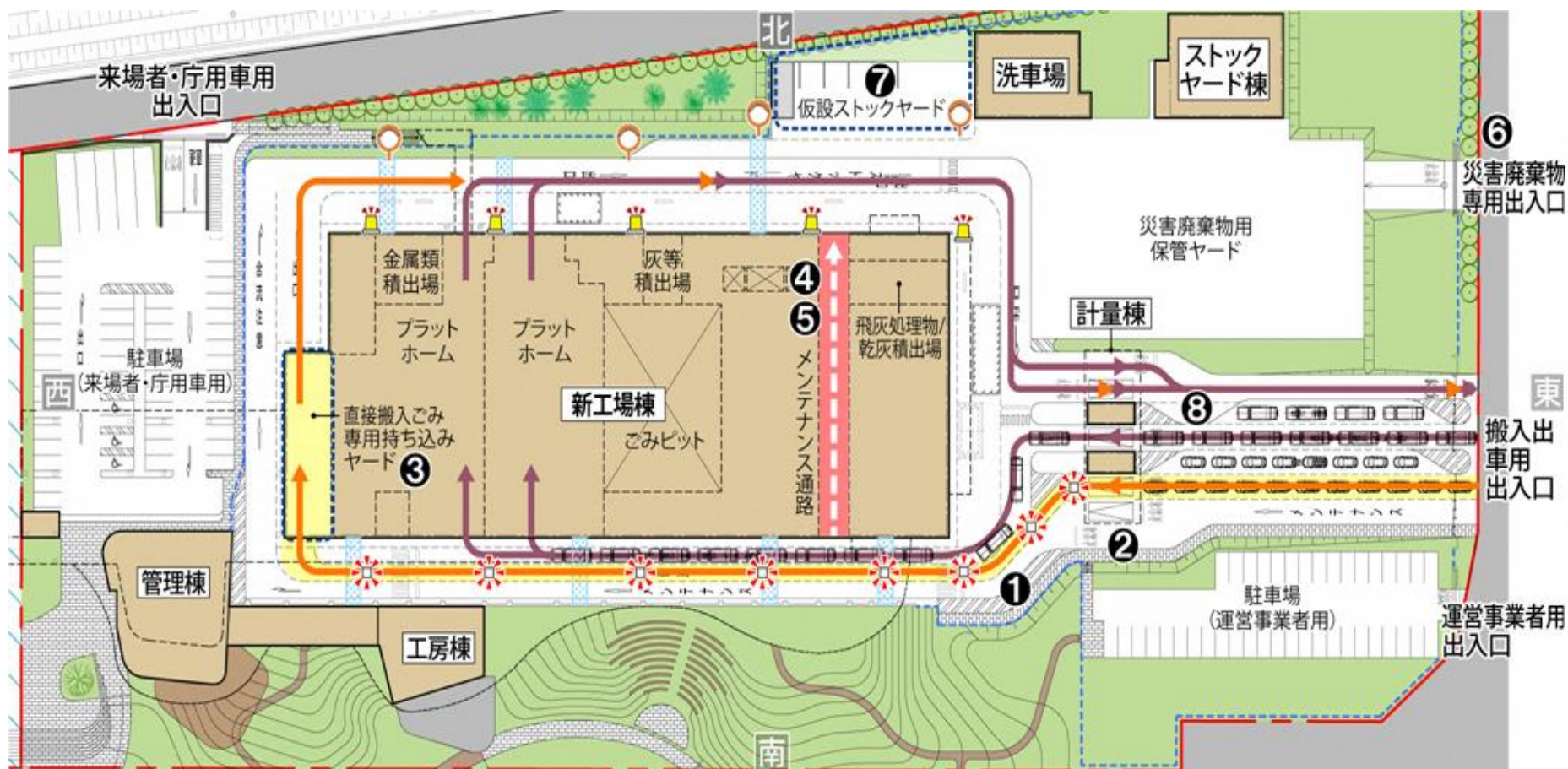
6-1. ごみ搬入ルート（イメージ）

市民の方のごみ直接搬入は、一方通行の分かりやすい動線と専用の荷下し場を設けます。



6-2. ごみ搬入ルート（ルート図）

市民の方のごみ直接搬入は、専用レーンを設けます。



余熱利用施設

ごみの焼却熱を有効利用した「余熱利用施設」を整備します。



【所在地】 菖蒲町台（菖蒲清掃センター周辺）の約40,000㎡（新ごみ処理施設用地内）

【整備施設】 プール、温浴、トレーニングジム、飲食施設等

【建物高さ】 地上2階

【事業費】 約130億円（建設費/83億円、運営費(20年間)/47億円） ※余熱利用施設と公園を併せた費用

1. 施設全景

運動を通じた健康づくりや生活を充実させるための余暇など、様々な世代の方が楽しめる施設となります。



2-1. 施設内容（ホール）

日差しを多く取り込み、健康的で明るいホールを設けます。



2-2. 施設内容（温水プール）

25mプール・流れるプールなどは、子供から高齢者まで楽しめる健康・運動の場となります。



25mプール(8レーン)
流れるプール
幼児用プール
ジャグジープール

2-3. 施設内容（温浴施設）

内湯やサウナのほか、露天風呂では炭酸泉や季節湯などを用意し、何度来ても楽しめる憩いの場となります。



内湯
サウナ
水風呂
露天風呂（炭酸泉、季節湯）



2-4. 施設内容（トレーニングジム・スタジオ）

トレーニングジムやフィットネススタジオは、初心者から上級者まで満足できる最新機器や各種教室など、あらゆる世代が楽しめる健康・運動の場となります。



トレーニングジム
(ランニングマシーンなど)

フィットネススタジオ
(活用例: ヨガ教室など各種教室、卓球等)



2-5. 施設内容（カルチャー室・飲食施設）

飲食施設やカルチャー室は、地元食材を使用した食事や囲碁将棋などを楽しめる余暇・交流の場となります。



飲食施設
(地元食材の活用)

カルチャー室
(活用例:会議、囲碁将棋などの各種教室)



2-6. 施設内容（屋上テラス）

ごみ処理施設とつながる屋上テラスは、人々の憩いや交流の場となります。



（仮称）本多静六記念 市民の森・緑の公園

本市出身の本多静六博士を顕彰した「（仮称）本多静六記念 市民の森・緑の公園」を整備します。



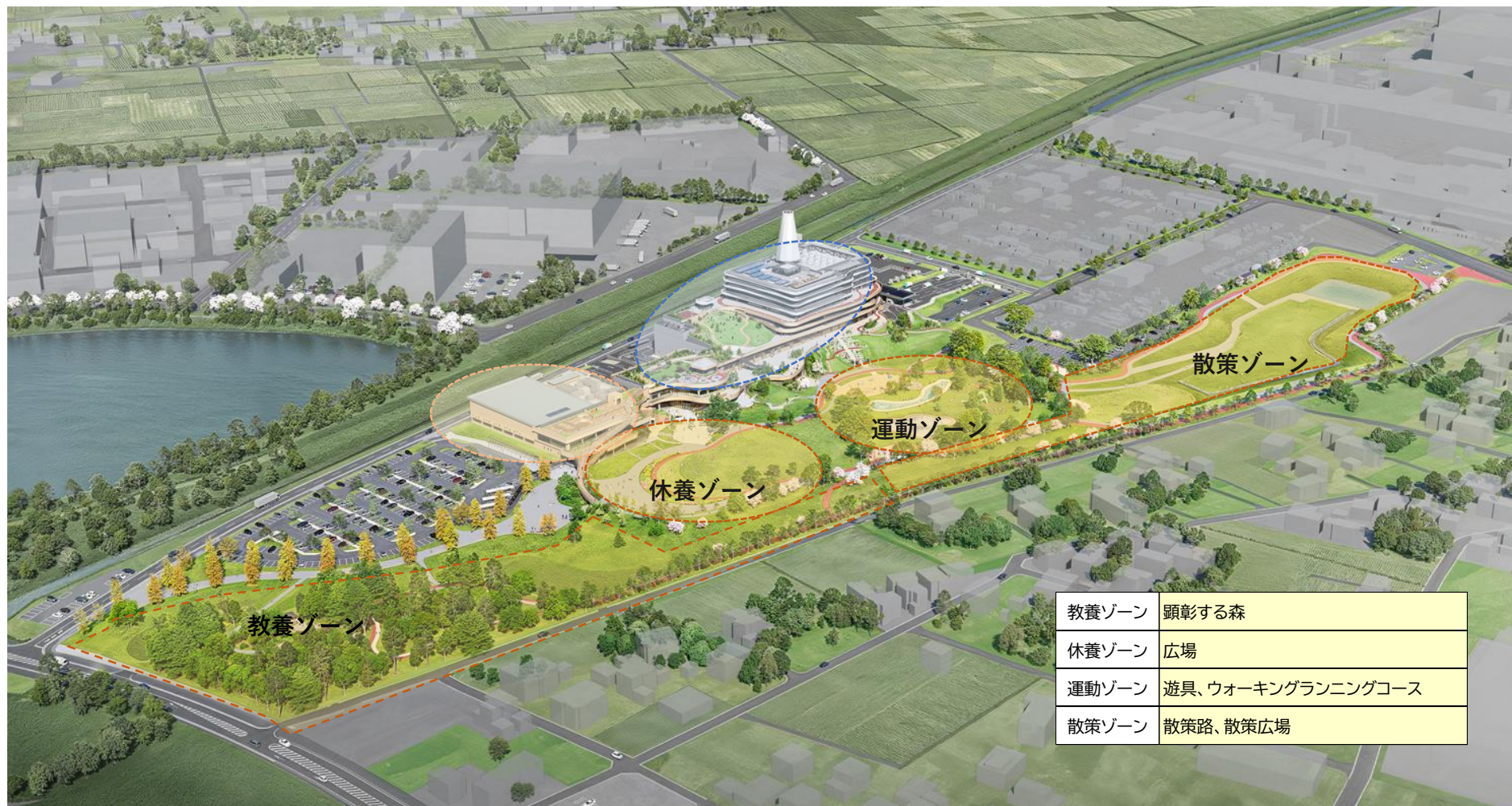
【所在地】 菖蒲町台（菖蒲清掃センター周辺）の約93,000㎡

【整備施設】 広場、ウォーキング・ランニングコース、バーベキューエリア、遊具等

【事業費】 約130億円（建設費/83億円、運営費(20年間)/47億円） ※余熱利用施設と公園を併せた費用

1. 公園全景

利用者の利用目的を念頭に、本多静六博士の公園設計の理念を取り入れた4つのゾーン（教養・休養・運動・散策）で構成する公園を整備します。



2-1. 教養ゾーン（エントランス・本多静六博士を顕彰する森）

イチョウ並木と本多静六博士を顕彰する森は、多種多様な樹木や自然観察による憩い・学びの場となります。



2-2. 教養ゾーン（遊歩道・本多静六博士を顕彰する森）

2つのゾーンの間に位置し、余熱利用施設の屋上とつながる遊歩道は、公園・余熱利用施設・ごみ処理施設を相互利用し、周回するための施設となります。



3-1. 休養ゾーン（芝生広場）

広大な芝生広場は、多くの利用者が思い思いに時を過ごすことができる健康・憩い・遊び・交流の場となります。



3-2. 休養ゾーン（賑わい広場）

公園・余熱利用施設・ごみ処理施設の中央にある賑わい広場は、イベント開催などによる交流の場となります。



4-1. 運動ゾーン（大型遊具・水遊び・バーベキューエリア）

ふわふわドーム・大型滑り台・レール遊具などの大型遊具や、ジャブジャブ池、バーベキューエリアは、多くの子供が集まる遊び・交流の場となります。



4-2. 運動ゾーン（インクルーシブ遊具）

インクルーシブ遊具は、あらゆる子供が一緒になって遊べる遊び・交流の場となります。



5. 散策ゾーン（散策路・散策広場・調整池）

調整池を利用した散策路や散策広場は、あやめやラベンダーなどをゆっくり眺めることができる憩い・交流の場となります。

